

公立大学法人熊本県立大学  
環境配慮方針

基本理念

熊本県は、公害の原点といわれる水俣病を通して環境破壊の悲惨さを経験しました。一方で、豊かな地下水と多様な森林を有するなど環境資源に素晴らしく恵まれています。そうしたことから、県都・熊本市は、古くから森の都とよばれ、近年は水の都としても注目されています。その町に立地するのが熊本県立大学で、私たちは熊本県土の全域をキャンパスとして教育研究活動を展開し、その成果が地域貢献につながることを強く願っています。

また、素晴らしい熊本の自然環境、人文・社会環境を含む地域環境を実感し、引き続きその下で自ら行動する地域活動を多彩に経験することを勤めます。このことで、優れた環境を後世に伝承する人材を育成することができ、持続可能な社会の構築に寄与する使命が達成できると思います。そこで、私たちは、本学におけるあらゆる教育研究活動を通して環境の保全・創造に努めます。

特に、「地域に生き、世界に伸びる」のスローガンのもと、地域での行動を柱に国際性への視点を持ち、大学と地域社会との協働の下、環境との共生に向け、環境への負荷を低減する活動に努めていきます。

基本方針

- 1 環境に関わる諸問題に関する基礎的知識と高度な専門性を有し、実践力と創造力を備え、国際的な視野から豊かな環境づくりに率先的に取り組める人材を育成する。
- 2 人文・社会・自然科学のすべての分野において総合的に環境保全や環境との共生に関する教育研究活動を実施する。
- 3 大学の教育研究成果の還元、教育研究資源の提供及び情報の収集発信等、地域貢献活動を積極的に行い、地域環境の保全及び改善に寄与する。
- 4 環境関連法規、学内の規定を遵守するとともに、大学自らが及ぼす環境影響を客観的に把握し、環境への負荷を低減するための取り組みを実施する。

2009年3月

公立大学法人熊本県立大学 理事長 蓑茂 壽太郎